



■ 中秋の名月

9月になりましたが夏の暑さは相変わらずです。「暑さ寒さも彼岸まで」と言われてきましたが、この暑さはいつまで続くのでしょうか。

日本は四季折々の変化に富んだ国であったはずですが、最近では二季になっているとか、少し極端な表現かも知れませんが、気候変動が急激に進んでいるのでしょうか。

季節の変化の遅さに比べると、日没時刻は随分と早くなってきた感じがします。夏至には北回帰線まで来ていた太陽は秋分時に赤道上迄戻っていき、その先確実に昼は短く夜が長くなっていきます。「秋の夜長」を現わすかのように、旧暦では9月を「長月」と呼び秋も終わりを迎えるところでした。

ところで、旧暦では7月から9月を秋と呼び、中秋の名月はこの長月に見る月ではなく、秋の真ん中に当たる旧暦8月15日のものでした。そして現在の暦では、一般的に中秋の名月は9月になります。今年は旧暦で閏2月が加わったため10月にずれ込むのではないかとも思いましたが、9月29日がその日に当たります。

上の写真は宮田宏美さんから提供された昨年の中秋の名月です。満月の写真は、実際に見た時のイメージにあわせてかなり大きなサイズではめ込みました。「鳥獣戯画」フリー素材から現れたウサギがいたずらを仕掛けています。それともお手伝いかな？

▽ 中秋の名月は1年で最も見ごたえのある十五夜と言われています。昔の人は空高く澄んだ夜空が広がる下で「竹取物語」で空想に浸っていたことでしょう。現代の私たちも何か夢を見ながら中秋の名月を愛でたいものです。しかしそこに飛んでいたのが某国のミサイル!! …これでは夢に浸ってなどられません。

▽ 世界の情勢が随分と先行き不透明になってきているようです。

- ・ ロシアのウクライナ侵略は1年半も続き、終わりが見えません。ロシア国内で内部崩壊が始まるかと思いきや、ワグネルの代表が乗った飛行機が墜落。事故かそれとも何か謀略があったのか。

- ・ 中国の不動産バブルがはじけたか。中国経済の伸びがみえず、海外企業の中国からの撤退、若者の失業率の公表は中止・・・、経済の実態はどうなっているのか。加えて北京を始め各地で大洪水。国民の政府を見る目に変化はないのか。政府は国民の目をそらす行動に出ていかないか。

- ・ BRICS に新たな6か国が加盟を決定。欧米主導の体制と新たな対立軸となっていくのか。

- ・ 次期米国大統領選にトランプ前大統領が出馬に意欲。アメリカファーストを唱えて世界の分断化を促進させてしまったのはこの人ではなかったか。

ススキを飾りお団子を重ねて夢に浸るべき「中秋の名月」が、ためらい愁う「躊躇の迷月」とならないことを願うばかりです。



■ 活動報告「Online 会合(8/26)」

広重の浮世絵「東海道五十三次」にはそっくり元絵があった、という説があり、その一部を比較して



眺めてみました。それを否定する説もあり真偽のほどは分らずです。広重の絵が多く庶民に受け入れられたことは事実で元絵の存在などどうでもよいことなのでしょう。報告は次を参照ください。

<http://jvc-senior.com/20230826onlinev2.pdf>

☆ 8/29「浅草ニューオリンズフェスティバル」令和6年度最初の行事でした。報告は次をご覧ください。 <http://jvc-senior.com/page341.html>

■ 科博のクラウドファンディング(CF)

<https://readyfor.jp/projects/kahaku2023cf>



動画URL https://youtu.be/zCQ_IzGIUeM

「過去の研究成果を受けて今の自分が研究し、結果を次の研究者に託していく。地球の宝物、標本を保存し将来につないでいくのは研究者の使命。」これは現在の科学技術館館長の言葉です。ところがつくばにある標本の保管倉庫の光熱費が高騰し予算が足りない、ということで所轄官庁の文化庁に掛け合っても答えはNo!。ということで・・・

合言葉「地球の宝を守れ」でCFの呼びかけ。

科博が用意した返礼品として、オリジナル図鑑やトートバック他、これが魅力だという声もあるようで、目標額の1億円は初日に達成。8月末現在で寄付者約4万5千人、総額7億円を超えています。この金は科学技術の普及啓発に利用したいとのことで、当初予定の11月5日まで受け付けています。

館長、副館長が科学者でCFを発案できたが、頭の固い従来役人にはできない仕事でしょう。

■ 東電福島原発処理水を海洋放出 (8/24)

東電処理水ポータルサイトを参照してください。

<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>

中国が早速反応を示しました。国内の透明性を重視するTPPへの加盟申請をしている中国ですが、このような対応で仲間になることができますかね。

■ BRICS 5カ国から11カ国に

21世紀初頭、経済成長が進むブラジル、ロシア、インド、中国の4か国のことを世界はBRICsと総称していました。最後のsは複数を示すものでしたが、後に南アフリカ共和国が加わりBRICS 5か国として経済協力の面で会議を持つようになりました。

今年8月にその南アフリカが議長国となって会議がもたれ、来年1月から新たにアルゼンチン、エジプト、エチオピア、イラン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦が会議参加国に正式加盟し、11カ国体制となることが決まりました。

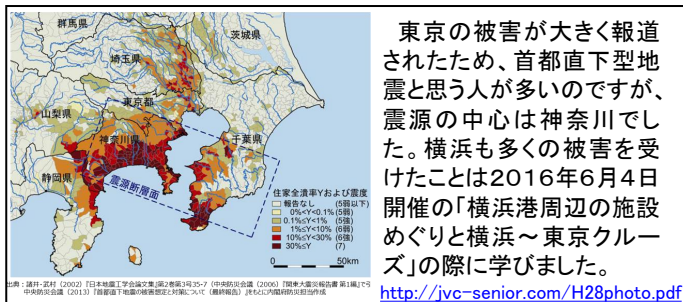
21世紀にはBRICSそれぞれの国は大きな飛躍がなされるものと期待されていましたが、この20数年で目覚ましく発展できたのは中国のみでそのほかの諸国との差は大きくなっています。近年インドが成長目覚ましいといわれていますが、中国のGDPは、2022年で見ると5カ国全体の70%近くを占め、11カ国になっても62%以上に達します。

会議のテーマは多国間の経済協力ですが、一国支配の様相にならないよう、会議の運営を期待するところです。 次の関連記事参照

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/8f6d14113b90cbec85da83aa482307bc84402b4c>

■ 関東大震災100年

今年、1923年(大正12年)に発生した関東大震災から、100年の節目に当たります。関東大震災は、近代日本の首都圏に未曾有の被害をもたらした、我が国の災害史において特筆すべき災害です。死者行方不明者約10万5千人、(内9割が焼死)、経済被害は当時の国家予算の約4倍にも及ぶという未曾有の大災害でした。



その発生日である9月1日が「防災の日」と定められているように、近代日本における災害対策の出発点となりました。首都直下地震や南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震など、大規模災害のリスクに直面する現代の私たちに、大変参考となる示唆や教訓を与えてくれます。

引用 <https://www.bousai.go.jp/kantou100/index.html>

■ 事務局から

令和6年度がスタートしています。総会開催案内、年会費納入のお願いなど同封の紙面をご確認ください。

事務局長 田代 周